



令和8年
春の国家褒章
叙勲受章者

- 4月29日付（順不同）
- 旭日小綬章 横山 純児氏 〈布施西支店〉
 - 旭日双光章 中許 忠和氏 〈八尾営業部〉
 - 瑞宝双光章 近藤 適氏 〈谷町支店〉
 - 瑞宝単光章 鈴木 昇氏 〈東成支店〉
 - 黄綬褒章 北谷 吉弘氏 〈福島支店〉
富塚 宗寛氏 〈たつみ支店〉
 - 藍綬褒章 大西美津子氏 〈枚岡支店〉
澤 義廣氏 〈森ノ宮支店〉

非破壊検査(株) (本町支店)

70期を迎え堺事業部を移転新設
大阪の中核拠点として飛躍を



移転新設した堺事業部の新事務所

大阪市西区北堀江を拠点に、非破壊検査のパイオニアとして実績を誇る同社(山口多賀幸社長)は4月、第70期の節目を機に堺事業部の事務所を堺市西区浜寺石津町西に移転新設しました。

同社は創業以来、「安全の防人」として、産業生産施設からインフラまであらゆる社会資本の劣化状況などを「壊すことなく」検査し、社会の安全を守ってきました。新事務所は大阪の中核拠点として未来志向の機能性と斬新なデザインを追求。今後も最先端技術で社会の安全を支え、さらなる飛躍と地域社会への貢献を目指します。

大阪書籍印刷(株) (本町支店)

書いた手紙がパズルに変身
文具女子アワードで優秀賞

書籍印刷を軸に100年の歴史を持つ同社(成田節夫社長)が、昨年12月に横浜市で開かれた「文具女子博2025」の来場者投票で「文具女子アワード2025 優秀賞」を受賞しました。学生の案を基に開発したレターセットで、書いた手紙を点線に沿ってちぎるとパズルのピースに。受け手側がそのパズルを組み立てることでメッセージが読めるというワクワク感を高めました。活字離れが進む中、書くことの新鮮さと楽しさを提供できる印刷会社を目指します。



書いた手紙がパズルになる「Pazulette」



ご購入はこちら▶

(株)坂本フロントエア (枚岡支店)

薬局やクリニックで地域医療に貢献
「宝町メディカルプラザ」を開設

東大阪市宝町で不動産賃貸業を営む同社(坂本貴社長)は、同地に医療ビル「宝町メディカルプラザ」を新設し、5月から営業を開始しました。

駐車場だった土地を有効活用したもので、オンライン服薬指導、オンライン処方箋受付などを行う薬局や整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科の診療をするクリニックが店舗を構えています。近鉄新石切駅や瓢箪山駅から近く、地元の高齢者が通いやすい立地も魅力の一つです。



開設した「宝町メディカルプラザ」

(株)関西金属工業所 (枚岡支店)

磨棒鋼製造のトップランナー
効率化進め働きやすい新社屋



自社の鋼材を意匠建材に活用した新社屋

枚方市招提田近を拠点に磨棒鋼の製造・販売を手掛ける同社(豊川麻社長)の新社屋が完成し、3月に営業を開始しました。磨棒鋼は金型を介して鋼材をさまざまな形状や大きさに引き抜いた製品で、主に自動車や産業機械などの部品として使用されます。1932年創業の同社は磨棒鋼製造のトップランナーとして日本の社会インフラに貢献してきました。5階建ての広い新社屋は自社の鋼材を意匠建材として活用。また、部署間の連携強化や業務効率化、働きやすさも実現しています。

(株)現代工業 (生野中支店)

「板金製大屋根リング」で話題
大阪ものづくり優良企業賞を受賞



大阪・関西万博で展示された「板金製大屋根リング」

大阪市生野区中川東で陳列・装飾・建築金物の製造販売などを担う同社(大橋玲子社長)は大阪府などが主催する「大阪ものづくり優良企業賞2025」で優良企業賞を受賞しました。

金属の切断・穴あけからレーザー加工・曲げ加工まで一貫して手掛ける同社。大阪・関西万博では実物の300分の1の「板金製大屋根リング」を製作・展示して技術力を発信しました。そのほか昨年12月には初めての「BtoC」に挑戦し、金属製ダストボックスシリーズ「EXTライン」を展開しています。

(同) 匡 (西九条支店)

新たなグループホーム開設
2カ所分の入所者をサポート



新たに開設したグループホーム

大阪市此花区を拠点に、障がい者の方のグループホーム運営や居宅介護・通所介護を手掛ける同社(中西由美子社長)は4月、同区高見に新たなグループホームを開設しました。新設したグループホームでは1階を事務所として使用。2・3階にこれまで別の場所で運営していた、短期入所も可能な「晴れたらいいなあ」と長期入所がメインの「晴れやか」を契約しました。1カ所に集約することで、利用者への目配りが一層行き届くようになりました。

(有) 東阪社 (瓢箪山支店)

人形やぬいぐるみに感謝込め
第2回「人形供養祭」を開催

東大阪市昭和町で葬祭の企画・運営を手掛ける同社(和合真揮社長)は3月、自社の法事会館で第2回「人形供養祭」を開催しました。

「長年大切にしてきた人形やぬいぐるみと安心してお別れがしたい」という地域の人たちの声を受けて昨年から開催。今年もポスターやインスタグラムで供養を呼びかけたところ、祭壇を埋め尽くすほどの人形が持ち込まれました。会場では読経が流れるなか、参列者が感謝を込めて合掌。参列できない人に向けてライブ配信も行われました。



読経が流れるなか人形供養が行われる会場